

業績書 (森 孝一)

(学位)

神学修士 1971年3月 同志社大学
Th.D. (神学博士) 1977年10月 Graduate Theological Union (バークレー神学
大学院連合、バークレー・カリフォルニア州)

(学位論文)

1971.3 「ヘブル人への手紙における歴史理解」(修士論文・同志社大学大学院)

1977.10 "Study of Makiguchi Tsunesaburo, The Founder of Soka Gakkai." (Th.D.
Dissertation, Graduate Theological Union)

(単著)

1996.3 『宗教からよむ「アメリカ」』、講談社選書メチエ、1996年。
(America Viewing from Religion)

2003.3 『「ジョージ・ブッシュ」のアタマの中身—アメリカ「超保守派」の世界観』、
講談社文庫、2003年。
(Content of George W. Bush's Head: the World-view of American
"Super-conservatives")

(編著書)

1997.2 『アメリカと宗教』(JIIC 現代アメリカ 5)、財団法人日本国際問題研究所、
1997年。
(Religion and the American Self-Image)

2007.1 『EUとイスラームの宗教伝統は共存できるか—「ムハンマドの風刺画事件」
の本質』、明石書店(明石ライブラリー 103)、2007年。

(Can EU Co-exist with the Islamic Religious Traditions?: the Essence of the
"Muhammad Cartoon" .)

ISBNコード: 978-4-7503-2472-2

(共著)

1992.9 「『アメリカ学派』の人種研究と奴隷制論争: 19世紀前半における科学と
宗教」 井門富二夫編『アメリカの宗教伝統と文化・アメリカの宗教・第一巻』、大明
堂、1992年。(The Religious Tradition and Culture of America.)

1992.4 「アメリカに国教は存在するのか—『アメリカの見えざる国教』とモルモン教」

井門富二夫編『アメリカの宗教—多民族社会の世界観』、弘文堂、1992年。
(Religion in America: World View in the Multi-ethnic Society.)

「アメリカにおける学生経済援助の理念と歴史」 社団法人日本私立大学連盟学生部
会『新・奨学制度論—日本の高等教育発展のために—』、開成出版、1992年。

1994.6 「アメリカのファンダメンタリズム」 井上順孝・大塚和夫編『ファンダメン
タリズムとは何か：世俗主義への挑戦』、新曜社、1994年6月。
(What Is Fundamentalism: Challenge to Secularism)

1998 「コラム：アメリカ・キリスト教の流れ」 野村達朗編著『アメリカ合衆国の歴
史』、ミネルヴァ書房、1998年、28—29頁。
(Column: Outline of Christianity in America)

1999.4 「『アメリカ型宗教』の特質」 川上忠雄編『アメリカ文化を学ぶ人のために』、
世界思想社、1999年、57—78頁。
(Characteristics of "American Type of Religion")

1999.5 「アメリカ宗教と多文化主義—多様性と国家統合」 油井大三郎、遠藤泰生編
『多文化主義のアメリカ—揺らぐナショナル・アイデンティティ』、東京大学出版会、
1999年、141-164頁。
("American Religion and Multi-culturalism: Diversity and National Unity," in:
Daizaburo Yui and Yasuo Endo (ed.), America in the Multi-culturalism.)

2000.5 「アメリカにおける国家と宗教—『見えざる国教』の過去と現在」 今関恒夫
(他)『ヨーロッパの探求③ 教会』、ミネルヴァ書房、2000年、85-119頁。
("Church and State in the United States of America: Past and Today of Civil
Religion in America," in: Tsuneo Imazeki, et al., Churches: Researching Europe
3.)

2000.9 「アメリカ宗教からよむ21世紀の世界」 総合研究開発機構(NIRA) 中
牧弘允共編『現代世界と宗教』、国際書院、2000年、181—195頁。
("World of the 21st Century Viewing from American Religion," National Institute
for Research Advancement (NIRA) and Hirochika Nakamaki, (ed.), The Impact of
Religion on Contemporary Society.)

2002.4 「解説」 柳田邦男『20世紀は人間を幸福にしたか』、講談社文庫、2002年、
325-334頁。
("Comment," in: Kunio Yanagida, Did the 20th Century Make Humankind Happy?)

2002.8 「God Bless America—愛国心の宗教的次元」、松原正毅、小杉 泰、臼杵 陽
(編)『岐路に立つ世界を語る—9.11以後の危機と希望』、平凡社、2002年、119-125
頁。
("'God Bless America': Religious Dimension of the American Patriotism," in:
Masatake Matsubara, Yasusi Kosugi, and Akira Usuki (ed.), World in the Turning
Point: Crisis and Hope after September 11th, Heibonsha, 2002.)

2003.1 「“One Nation under God”」有賀夏紀、油井大三郎（編）『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実』、有斐閣アルマ、2003年、253-266頁。

2003.1 「補論 靖国神社とアーリントン墓地」、有賀夏紀、油井大三郎（編）『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実』、有斐閣アルマ、2003年、267-268頁。

2003.10 「第4章 宗教」、五十嵐武士・油井大三郎（編）『アメリカ研究入門 第3版』、東京大学出版会、2003年、53-64頁。

2004.3 「アメリカのグローバル戦略と『十字軍の思想』」、比較法史学会（編）『戦争装置としての国家』(Historia Juris 比較法史研究—思想・制度・社会 12)、未来社、2004年、282-288頁。

2004.5 「“God Bless America”と星条旗—『同時多発テロ』後のアメリカを読み解く」、関西学院大学キリスト教と文化研究センター（編）『民と神と神々と—イスラーム・アメリカ・日本を読む』、関西学院大学出版会、2004年、197-231頁。

2004.6 「アメリカの文明理解の原型—J・ストロング牧師と米西戦争の大義」（ハンブル語）、『教會・民族・歴史—関庚培先生古稀記念 論文集』、関庚培博士古稀記念論文集 出版編輯・後援委員会、2004年、633-650頁。

2004.7 「『政教非分離国家』—アメリカ」、森 孝一・豊下梢彦・村田晃嗣・栗林輝夫『ブッシュ政権のグローバル戦略と宗教』(K. G. りぶれっと)、関西学院大学出版会、2004年、10-16頁。

2006.1 「宗教勢力がカギを握るアメリカ大統領選」、『三宅善信対談集・文字化けした歴史を読み解く』、文園社、2006年、159-183頁。

2006.6 Koichi Mori, “The Trial of Coexistence of the Religions of Abraham in Japan,” *La Chaire Ben Ali Pour Le Dialogue des Civilizations et des Religions, /Dialogue des Religions d’ Abraham pour la Tolérance et la Paix, Actes du Colloque Organisé a Tunis du 8 au 10 Decembre 2004*, Université de Tunis El Manar, 2006, pp. 189-193.

(ベン・アリ大統領講座 諸文明・諸宗教間対話シンポジウム「アブラハム宗教の対話—寛容と平和に向けて」、2004年12月8日-9日（於チュニス）、チュニス・エル・マナール大学出版、2006年6月、pp. 189-193.)

2007.7 「第3章 宗教と社会—なぜアメリカは、かくも宗教的なのか」、久保文明（編著）『超大国アメリカの素顔』、ウェッジ選書、101-135頁。

(論文)

1978.12 「ロバート・N・ベラの宗教研究の方法とその展開」『基督教研究』第42

巻第1号, pp.51-62.

1979.12 "The Emperor of Japan: A Historical Study in Religious Symbolism," *Japanese Journal of Religious Studies*, vol.6, no.4, pp.522-565.

1980.6-9 "Yanagita Kunio: An Interpretive Study," *Japanese Journal of Religious Studies*, vol.7, no.2-3, pp.83-115.

1980.10 「アメリカの Civil Religion について」『基督教研究』第43巻第2号, pp.55-86.

1982.7 「デトロイト時代のラインホルド・ニーバー：1915-1928」『基督教研究』第45巻第1号, pp.1-37.

1984.3 「ファンダメンタリストの政治化現象：1980年代の『新宗教右翼』の研究」『同志社アメリカ研究』、20, pp.37-51. (Politicization of Fundamentalists: A Study on Religious New Right in 1980s.)

1984.7 "The Vacuum of the Value System and the New Religious Right," *Kyoto American Studies Summer Seminar, Specialists Conference, 1984*, pp.25-35.

1985.3 「アメリカにおけるファンダメンタリズムの歴史」『基督教研究』・第46巻第2号, pp.40-92. (The History of Fundamentalism in the United States of America.)

1986.10 「ナショナル・アイデンティティを求めて：『新宗教右翼』台頭の背景」『世界週報』(時事通信社)、1986.10.28, pp.44-49.

1987.3 「メインライン教会と新宗教右翼：アメリカ・キリスト教界の現状と展望」『基督教研究』、第48巻第2号, pp.81-102.

1988.3 「ジョサイア・ストロングにとっての世紀末」『アメリカ研究』(アメリカ学会), 22, pp.71-88. (Josiah Strong and the End of the Nineteenth-Century.)

1988.3 「ギャラップ調査に見るアメリカ宗教の現状」『同志社アメリカ研究』、第24号, pp.169-180. (Religious Situation of the United States According to the Gallup Polls.)

1989.9 「世紀末と『都市』のイメージ」『聖書と教会』1989年9月号, pp.8-13.

1990.3 「シカゴ万国宗教会議：1893年」『同志社アメリカ研究』第26号、1990年, pp.1-21. (The World's Parliament of Religions in Chicago: 1893.)

- 1990.3 「ジョサイア・ストロングと社会的福音」『基督教研究』第51巻第2号。pp.17-35.
- 1990.10 「年中行事のなかの儀式」『レゴ』第19号。69頁。
- 1991.3 「『アメリカの夢』の行方」『基督教研究』第52巻第2号。pp.27-56。
(American Dream: Past, Present and Future.)
- 1992.3 「西半球における宗教の政治化現象—『解放の神学』と『新宗教右翼』」『アメリカ研究』第26号。pp.145-164. (Politicization of Religions in the Western Hemisphere: Liberation Theology and the Religious New Right.)
- 1992.8 「世紀転換期の宗教とナショナリズム」『アメリカ史研究』第15号。pp.9-14. (Religion and Nationalism during the End of the Nineteenth Century in America)
- 1994.3 「ジョサイア・ストロングにとっての米西戦争」『基督教研究』第55巻、第2号、pp.53-71. (Spanish-American War for Josiah Strong)
- 1994.12 「『ナショナル・ホリデー』の日米比較」『同志社アメリカ研究』第31号、pp.47-52. (Comparison of the "National Holiday": the United States and Japan)
- 1995.3 「アメリカ社会と宗教」『アメリカ社会と宗教』(平成6年度外務省委託研究報告書)、財団法人日本国際問題研究所、pp.3-6. (American Society and Religion)
- 1996.3 「『宗教』と日米相互理解」『アメリカ社会と宗教』(平成7年度外務省委託研究報告書)、財団法人日本国際問題研究所、pp.7-12. ("Religion" and the Mutual Understanding between Japan and the United States)
- 1996.6 「アメリカ政治における『宗教』の意味。」(談話)『潮』、1996年6月号、pp.140-147. (The Meaning of "Religion" for the Politics of the United States)
- 1996.12 「『共存のシステム』としての政教分離」『創文』、1996年12月号、pp.10-13. (Separation of Church and State as the System of Coexistence)
- 1998.6 「アメリカに渡ったキリスト教」『英語教育』、1998年7月号、pp.10-13.
- 1999.7 「アメリカの大義—宗教としてのアメリカナイゼーション」『大航海』「特集・宗教戦争としての現代」No.29、1999年8月号、pp.106-113.
- 1999.7 「同志社大学—新島襄の志をどのように継承するか」『IDE 現代の高等教育』、No.410 (1999年8月号・宗教系大学)、pp.18-22.
- 1999.12 "Is the Public Square So Naked?" in: Hitoshi Abe, Hiroko Sato, and Chieko Kitagawa Otsuru, eds., The Public and the Private in the United States (Osaka:

- Japan Center for Area Studies, The National Museum of Ethnology, 1999), pp. 71-76.
2000. 4 「同化から共生へーアメリカの『見えざる国教』」は変化したのか？」『NIRA 政策研究』2000, Vol. 13, No. 4 (グローバル化の中の「宗教」の行方)、26-29 頁。
2001. 3 「アパルトヘイトとキリスト教ーアメリカ合衆国との比較研究ー」、平成 11 年度・平成 12 年度 科学研究費補助金 基盤研究 (C) 成果報告書、課題番号 11610031。
2002. 3 「アパルトヘイトと南アフリカの『見えざる国教』、『基督教研究』第 63 巻第 2 号、2002 年、78-99 頁。
2002. 9 「アメリカと『神』、『英語教育』、2002 年 10 月増刊号、27-30 頁。
2002. 9 「ショッピングモール・チャーチ、『英語教育』、2002 年 10 月増刊号、30-31 頁。
2002. 10 「『宗教国家』アメリカは原理主義を克服できるか?」、『現代思想』2002 年 10 月号 (特集: アメリカを知れ)、103-115 頁。
2002. 12 「アメリカ文明の宗教的次元、『比較文明』18 (特集・衰退するか、アメリカ文明)、比較文明学会、2002 年、99-109 頁。
2003. 3 「『9. 11』1 周年のアメリカの不安、『地域研究論集』、Vol. 5, No. 1、2003 年、109-112 頁。
2003. 6 「ブッシュにとっての『自由』と『神』ーアメリカ政治の鍵を握る宗教右派、『SIGHT』7 月増刊号、2003 年、32-37 頁。
2003. 6 (“Can the United States Overcome its Fundamentalism?” Sinhak Gwa Saige[Theology and the World]), vol. 46, 2003, pp. 137-154.
2003. 8 「イラク戦争の大義とアメリカの宗教、『そうせいー全国曹洞宗青年会』(特集: アメリカにおける原理主義)、2003/8/No. 122、4-7 頁。
2003. 12 「アメリカのグローバル戦略と宗教右派、『日本の対中東戦略のあり方に関する調査研究報告書』、独立行政法人経済産業研究所、委託先: 財団法人中東経済研究所、2003 年、35-41 頁。
2004. 2 「ネオコンと宗教右派ーブッシュ政権を支える頭と体、『朝日総研リポート』(朝日新聞社総合研究本部)、No. 166、2004 年、35-46 頁。
2004. 3 「『憲法修正第 1 条とアメリカの公教育における宗教』に対するコメント、『基督教研究』第 63 号、第 2 号、2004 年、34-44 頁。(Response Comments on Beauchamp's Lecture)

- 2004.3 「アメリカと宗教」(特集・現代世界と宗教—ブッシュ政権のグローバル戦略と宗教)『同志社時報』、No. 117、2004年、17-21頁。
- 2004.3 「アメリカの『見えざる国教』再考」、『アメリカ研究』38、2004年、123-140頁。(Reexamination of the American Civil Religion.)
- 2004.3 「世界の宗教と日本の宗教」、『グローバル社会における日本のあり方研究会・報告書』、(財)兵庫県国際交流協会、2004年、98-119頁。
- 2005.2 「『9.11』とアメリカの『見えざる国教』」、『一神教学際研究』 1 (2005)、4-20頁。
- 2005.2 "9/11 and the 'American Civil Religion' Today," *Journal of the Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions*, No. 1, pp. 2-18.
- 2005.3 「アメリカの宗教は変化したのか」、『遠近』(をちこち)(国際交流基金) No. 4 (Apr./May 2005)、(特集・アメリカと向き合う)、25-28頁。
- 2005.3 「ブッシュ大統領と『アメリカ原理主義』」、『Quadrante』(東京外国語大学海外事情研究所)、No. 7 (2005年3月)、43-59頁。
- 2005.11 "President Bush's Discourse on War against 'Terrorism'," *Journal of Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions*, No. 1 Special Issue, pp. 61-65.
- 2006.3 「イラク戦争の大義とアメリカの宗教」、『大谷学報』、第85巻第2号(2006.3)、61-84頁。
- 2006.3 「宗教から見た米国の歴史」、『国際理解のための教材開発—アメリカ合衆国について』、兵庫県国際理解教育研究プロジェクト、2006年3月、31-45頁。
- 2006.5 「預言者を待ちながら—9.11とポストブッシュをめぐって」(Waiting for the Prophet: On the 9.11 and the Post-Bush)、『正論@アリエス』(講談社ウェブ雑誌) (<http://moura.jp/scoop-e/seigen/downloads/index.html>)、2006年5月25日号、1-48頁。
- 2006.11 「恐怖のなかにあるアメリカに期待すること」(What I Expect for the United States Which has been in the Terror)、『学際』 No. 19 (2006年11月30日発行)、6-13頁。
- 2007.1 「アメリカの世界政策とその宗教的次元」(Global Strategy of the United States and It's Religious Dimension)、『軍縮地球市民』(明治大学軍縮平和研究所)、No. 7 (Winter, 2007)、20-25頁。
- 2007.1 「『宗教国家』アメリカの実相」(Real Image of the United States as 'Religious Nation') ('フォーラム' 地球学の世紀 112)、『WEDGE』、vol.19、No.2

(February 2007)、58-59 頁。

2007.6 「トランス・リジョナル」な地域研究としての「一神教の学際的研究」、『学術の動向』（日本学術会議）、第12巻、第6号（2007年6月号）、41-45頁。

2007.7 “Trends of Academic Research in Japan (the Case of Doshisha University),” *Japanese and Oriental Studies*, The Center of Oriental Studies, Cairo University, pp. 87-98. (Arabic Language)

(書評)

1978.4 「Robert N. Bellah, *The Broken Covenant.*」 『聖書と教会』、1978.4.

1983.2 「柳生望・『アメリカ・ピューリタン研究』」 『日本の神学』 21 (1982)。

1985.1 「上坂昇 『現代アメリカの保守勢力』」 『本のひろば』 1985年1月号。

1985.2 「佐々木毅・『現代アメリカの保守主義』」 『アメリカ学会会報』 76.

1985.4 「ロバート・N・ベラー・『破られた契約』」 『宗教と文明』（聖心女子大学キリスト教文化研究所）、11。

1988.12 「Martin Marty, et al., “Has There Been a Reagan Revolution in Theology? A Symposium”, *The Christian Century*, March 16, 1988.」 『聖書と教会』 1988年12月号。

1989.11 「Ronald J. Sider, Charles E. White, et. al., “‘Pro-life’: What Does It Really Mean?” *Christianity Today*, July 14, 1989, 27-38.」 『聖書と教会』 1989年11月号。

1989.12 「梶原 寿『約束の地をめざして：M・L・キングと公民権運動』」 『聖書と教会』 1989年12月号。45-46頁。

1990.2 「千葉 眞『現代プロテスタンティズムの政治思想：R・ニーバーとJ・モルトマンの比較研究』」 『アメリカ学会会報』 76、5, 8頁。

1990.11 「S.E. オールストローム著、児玉佳与子訳『アメリカ神学思想入門』」 『聖書と教会』 1990年11月号。45-46頁。

1990.11 「マーティン・E・マーティー著、三宅威仁訳『アメリカ教会の現実と使命』」 『本のひろば』 1990年10月号。24-25頁。

1991.11 「『カラー版・聖書大事典』」 『レゴ』 第20号。74-76頁。

1993. 10 「小桧山ル著『アメリカ婦人宣教師—来日の背景とその影響』、『日本の神学』32。125-130頁。

1996. 10 「森本アンリ著『ジョナサン・エドワーズ研究—アメリカ・ピューリタニズムの存在論と救済論—』、『アメリカ学会会報』、No. 123、3頁。

1998. 7 「ハロラン英美子著『アメリカ精神の源』」、BOOK・本『産経新聞』、平成10年7月18日。

2004年3月 「大澤武男『ローマ教皇とナチス』」、信濃毎日新聞など20紙、2004年3月28日。

(口頭発表)

1978. 3. 30 「ロバート・N・ベラの宗教研究の方法とその意味」、日本基督教学会近畿支部会。

1984. 11. 6 「アメリカにおけるファンダメンタリズムの歴史」、第12回日野真澄教授記念講座。

1986. 4. 1 「社会現象としてのファンダメンタリズム」、アメリカ学会第20回年次大会。

1990. 9. 11 「『アメリカの夢』の行方」、90神学協議会(同志社大学神学部)。

1993. 6. 27 「アメリカ合衆国のファンダメンタリズム：歴史・現状・展望」、
「宗教と社会」学会 第一回学術大会(明治大学)、シンポジウム「“ファンダメンタリズム”の視点」。

1993. 7. 3 「シカゴ万国宗教会議の実像」第28回IARF世界大会ならびに万国宗教会議百周年記念大会のための、関西地域事前学習会(金光教泉尾教会)

1994. 11. 7 「シカゴ万国宗教会議と文明の帝国主義」WCRP平和大学東京講座『万国宗教会議の意義と宗教協力』の基調講演(立正佼成会普門館)

1994. 11. 18-20 「『文明の衝突』論の提起するもの」(第21回国際学生セミナー「アジア・太平洋における対立と協調」・セッション演習A・大塚和夫氏とともに)

1995. 9. 22 「オクラホマ・シティ連邦政府ビル爆破事件と進化論教育論争」、日本国際問題研究所、「アメリカ社会と宗教」研究会(日本国際問題研究所)

1996. 8. 5 「民主主義と宗教—政教分離の日米比較」、創価学会「ヒューマン・フォーラム」、
兵庫池田文化会館。

1996. 12. 21 「デノミネーションナリズムの再検討」、アメリカ史研究会第173回例会、明

治大学。

1997. 6. 7 アメリカ学会第 31 回年次大会 (愛知教育大学)
ワークショップ B "Religion in Post-World War II America" の Chair.

1997. 7. 5 「アメリカ合衆国におけるファンダメンタリズムー歴史と現状ー」、平成 9 年度国立民族学博物館地域研究企画交流センター連携研究共同研究会「イスラム復興の諸側面ー地域間の比較研究ー」、東京都立大学。

1997. 6-7 同志社大学東京講座 第 1 セッション 「宗教からよむ『アメリカ』」、東京山手教会。

第一回 (6. 17) 「『政教分離』の日米比較」
第二回 (7. 1) 「統計にみる『アメリカ社会と宗教』」
第三回 (7. 15) 「『宗教と民族の時代』の次にくるもの」

1997. 9. 28 「人類共存と宗教の未来」(芦屋 JOCS 秋季講演会)、芦屋市民センター 401 号室。

1997. 10. 12 「不透明な時代の『透明な存在』」(東京都民教会・秋季特別礼拝後の講演会)。

1997. 12. 17 「年末年始を考える」(三水会、京都センチュリーホテル)

1998. 1. 15 「アメリカ外交の宗教的次元」(同志社キリスト者平和の会 0B・0G の会、関西セミナーハウス)

1998. 1. 23 「アメリカ宗教から読む 21 世紀の世界」(総合研究開発機構 [NIRA・National Institute for Research Advancement]、現代社会と宗教に関する研究・第 11 回研究会、NIRA 大会議室)

1999. 1. 18-21 「文部省国際シンポジウム・アメリカにおける公共性」、国立民族学博物館、実行委員、コメンテーター。(『国立民族学博物館研究概報・1998』、88 頁。)

1999. 3. 14 「アメリカ外交の宗教的次元」、第 8 回ぎのわん・セミナー・ハウス「聖書の学び」一般講演会。

1999. 3. 15 「アメリカ・キリスト教の現状と課題」、ぎのわん・セミナー・ハウス「教師のための研修会」。

2000. 3. 11 「アメリカの宗教右派が目指すもの」、関西セミナーハウス、研究と教育を考えるキリスト者の会 第 43 回。

2000. 4. 9 「原理主義を超えて」、日本キリスト教団高の原教会、創立 25 周年記念講演。

2000. 6. 27 「アメリカ大統領選挙と宗教右派」、同志社東京講座 インターセッショ

ンA。

2000. 8. 19 「『心の教育』を考えるー神学・宗教の視点から何が見えてくるのか?」、代々木ゼミナール大阪南校、2000年受験生のための新大学進学講座。

2000. 11. 15 「アメリカ合衆国の『見えざる国教』ー歴史・現状・課題ー」、慶応大学法学部寄付講座 地域研究論・政治と宗教、講義担当。

2001. 3. 17 「宗教間対話の課題と展望」、WCRP 日本青年部講演会、金光教泉尾教会。

2002. 1. 12 「『テロ攻撃』とアメリカの『見えざる国教』」、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、平成13年度「アジア・アフリカにおける政治文化の動態」及び平成13年度「アル=アフガニーとイスラームの『近代』」共同プロジェクト研究会。

2002. 1. 29 「ジェーンズ大尉の文明理解」、熊本バンド126周年記念公開講演会、熊本草葉町教会。

2002. 3. 1 「原理主義とは何か?」、京都商工中金「ユース会」、京都銀行協会。

2002. 5. 21 「"God Bless America"と星条旗ー『同時多発テロ』後のアメリカを読みとく」、関西学院大学キリスト教と文化研究センター 第16回RCCフォーラム。

2002. 5. 31 「アメリカの『見えざる国教』は変化したのか?」、アメリカ学会第36回年次大会シンポジウム「新しい国際危機とアメリカ同時多発テロ事件が投げかけるもの」、明治大学駿河台校舎リバティータワー。

2002. 8. 26 「みんなで話して考える健康みらい」、第26回日本医学会総会併設イベント「すこやかメッセ2003」のプレ・シンポジウムのパネリストとして発題。

2002. 11. 09 「アメリカ合衆国の公教育における宗教教育の現状」、比較文明学会 第20回大会、2002年11月9日~10日、国立民族学博物館。

2002. 5. 28 「『アメリカ原理主義』の現実とその克服の可能性」、アジアボランティアセンター ボランティアセミナー「平和と国際協力」、大阪聖パウロ教会。

2003. 7. 5 「米新戦略と宗教右派」、中東経済研究所。

2003. 7. 5 「ブッシュ大統領とキリスト教原理主義ー文明の衝突ではなく、対話のために」、日本クリスチャンアカデミー 関東活動センター。

2003. 10. 9 日本外務省・バーレーン王国外務省主催 第2回 イスラム世界との文明間対話セミナー「平和と人間開発」、第IV部 非公開セッション「将来への展望」、コメンテーター。

2003. 11. 8 「イラク戦争の大義」、シンポジウム「アメリカとイラク戦争ーその総合

的考察」、中・四国アメリカ学会 第31回年次大会、広島経済大学。

2004. 5. 22 「宗教国家アメリカとイラク戦争の大義」、京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ。

2004. 10. 5 「大統領選挙とアメリカの宗教状況」、大阪国際宗教同志会 平成16年度第三回例会 記念講演、金光教泉尾教会。

2004. 10. 26 「ジョージ・ブッシュのアタマの中身」、関西プレスクラブ10月昼食会、ヒルトン・ホテル大阪。

2004. 11. 9 「原理主義は克服できるか?」、文化庁主催 第2回国際文化フォーラム「文化の多様性」 座談会 I 「シルクロードと仏教文化」(座長: 平山郁夫、司会: 山折哲雄)、東大寺本坊。

2004. 12. 9 "The Trial of Coexistence of the Religions of Abraham in Japan," International Symposium on Dialogue among the Religions of Abraham for Tolerance and Peace, December 9-10, 2004, sponsored by the President Ben Ali Chair on the Dialogue of Civilizations and Religions, at Hotel Acropole, Tunis, Tunisia. (Dialogue des Religions D'Abraham pur la Tolerance et la Paix, Zine El Abidine Ben Ali President de la Republique, La Chaire Ben Ali pour le Dialogue de Civilisations et des Religions).

(「日本におけるアブラハムの宗教の共存の試み」、「文明と宗教の対話に関するベン・アリ大統領講座」主催国際シンポジウム「アブラハムの宗教における寛容と平和」、2004年12月9-10日、アクロポールホテル、チュニス、チュニジア)

2005. 1. 8 "Japanese Understanding of Contemporary American Christianity" for the panel on Cross-Cultural Perspectives on Contemporary Christianity: Japan and the United States, the American Society of Church History, at The Westin Seattle, Seattle, Washington, January 7-9, 2005.

2005. 1. 15 「ブッシュのアメリカとキリスト教 ～なぜモラルを強調し、戦争を行うか?～」、クリスチャン・アカデミー 新年の集い、早稲田キリスト教会館。

2005. 1. 16 「ブッシュ大統領再選とアメリカ・キリスト教会」、日本基督教団福岡地区協議会、日本基督教団福岡渡辺通教会。

2005. 1. 30 「ブッシュ大統領再選とアメリカ・キリスト教会の課題」、日本キリスト教団須磨教会。

2005. 2. 5 「ブッシュ大統領と『アメリカ原理主義』」、東京外国語大学海外事情研究所・国際シンポジウム「帝国の”死の政治学”(ネクロポリティクス)ー『原理主義』・戦争・生命」、2005年2月5日、東京外国語大学。

2005. 3. 28 "President Bush's War against Terrorism," Organized Panel: "Discourse on Violence and War in the Islamic and Christian World," with Katsuhiko

Kohara and Ko Nakata, The 19th World Congress of the International Association for the History of Religions (IAHR 2005 TOKYO).

2005. 5. 24 「イラク戦争の大義とアメリカの宗教」、大谷大学大谷講座 春季公開講演会、2005年5月24日、大谷大学。

2005. 5. 29 「聖日礼拝・説教『私を追う神』」、延世大学校教会、2005年5月29日。(戦後、二人目の日本人説教者。最初は、10数年前の土肥昭夫教授。)

2005. 5. 30 「一神教への挑戦とキリスト教の責任」、朝暘講座 (Choyang Open Lecture, "Christianity and Islamic World")、延世大学校教会礼拝堂。

2005. 6. 21 「ブッシュ政権のグローバル戦略の理念と宗教」、(財) アジア太平洋研究会 JPAフォーラム、Japan Times ビルディング。

2005. 6. 26 「アメリカ・キリスト教における癒しと救済—世界の苦悩を共にできているか?」、上智大学キリスト教文化・東洋宗教研究所 第33回連続講演会、テーマ「宗教における癒しと救済—現代世界と苦悩を共にする宗教」、上智大学中央図書館L-921号室。

2005. 7. 3 「宗教から見た米国の歴史」、兵庫教育大学・米国に関する国際理解教育研修、神戸国際会館 6号会議室。

2005. 7. 29 「アメリカ・グローバル戦略の宗教的次元」、日本学術会議 宗教学研究連絡委員会主催 公開シンポジウム「戦争と平和—宗教の視点から—」、日本学術会議講堂。

2005. 8. 14 「イラク戦争の大義とアメリカ・キリスト教—私たちには何ができるのか?」、2005年度8・15旭川平和祈禱会、日本キリスト教団高岡教会。

2005. 8. 15 「イラク戦争の大義とアメリカ・キリスト教—私たちには何ができるのか?」、8・15札幌平和祈禱集会、北海道クリスチャンセンター。

2005. 9. 18 「原理主義の克服をめざして—『9・11』以後の世界を読み解く」、日本キリスト教団天満教会特別集会。

2005. 9. 19 「9・11以後の世界におけるキリスト教の課題」、聖公会山陽伝道区信徒研修会、明石聖マリア・マグダレン教会。

2005. 10. 2 「福音派はキリスト教原理主義者か?」、日本政治学会 2005年度研究会 分科会16「アメリカの政治と宗教」、明治大学。

2006. 6. 4 「アメリカの『キリスト教原理主義』—その歴史と実相」、「宗教と社会」学会第14回学術大会 テーマセッション「『原理主義』の実相—中東・アメリカ・EU」、同志社大学。

2006. 11. 28 「宗教から世界と日本を考える」、ソロプチニスト日本財団 平成 18 年年次大会、福岡国際会議場。

2006. 12. 5 「靖国神社とアーリントン国立墓地」(超大国アメリカの内と外④)、J R 東海『WEDGE』フォーラム「地球学の世紀」第 112 回、元町館 4 階 「スペース U」(東京都文京区本郷 2-3-15)。

2007. 1. 26 『『イラク戦争の大義』とアメリカ建国の理念』、サントリー平和財団「文明論としてのアメリカン・スタディーズ」研究会(座長・阿川尚之、コメンテーター・山崎正和)、サントリー平和財団(大阪)。

2007. 1. 29 「アメリカの国家理念とその宗教的次元」、真宗大谷派京都教区育成員研修会、真宗大谷派京都教区会館。

2007. 2. 23 『『アメリカ宗教』理解のための基本的な枠組み』、「アメリカ研究における宗教の重要性—NASSS(名古屋アメリカ研究夏期セミナー)の準備研究会」、南山大学名古屋キャンパス。

2007. 3. 2 『『一神教の学際的研究—文明の共存と安全保障の視点から』の現状』、シンポジウム「地域研究の最前線—知の創成—」、日本学術会議講堂。

2007. 7. 21 『『千年王国』とアメリカの使命—共存を妨げるもの:キリスト教の場合』、C I S M O R 2007 年度第 2 回部門研究 1・2 合同研究会、同志社大学今出川キャンパス寒梅館 6 階会議室。

2007. 7. 22 「アメリカ・グローバル戦略の宗教的次元」、同志社大学政法会 本部・神戸支部共催 講演会、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、瑞天東の間。

2007. 8. 11 「政治と宗教—アメリカ政府とキリスト教」、めぐみフォーラム、めぐみホーム(京都市伏見区)。

2008. 5. 20 「大統領選挙と福音派・宗教右派の動向」、京都日米協会 2008 年春季例会、リーガ・ロイヤル・ホテル京都。

(辞典・分担執筆)

『キリスト教人名辞典』、日本基督教団出版局、1986 年。

大下尚一他編『アメリカ・ハンディ辞典』、有斐閣、1989 年。

『世界民族問題事典』、平凡社、1995 年。

(その他)

1978.7 「諸宗教の対話における日本とアメリカ」『基督教世界』、第3338号。

1981.12 「アメリカの保守的キリスト教」『レゴ』、第3号。

1984.1 「アメリカの『新宗教右翼』」『基督教世界』、第3404号。

1984.4.11 「明るいナショナリズム」『チャペル・アワー月報』、No.55.

1986.9 「研究ノート・アメリカキリスト教史研究」『聖書と教会』、1986.9.

(同神期報の在外研究報告)

1987.4 「プロテスタント諸教会」『ブリタニカ国際年鑑・1987年版』(TBSブリタニカ年鑑)

1988.8 「『聖なる日』としての国民の祝日」『聖書と教会』1988年8月号、巻頭言。

1989年3月 「時代の要請か、それとも……」『聖書と教会』1989年3月号、巻頭言。

1989年3月 「家庭教育と母親の役割」『婦人会だより』No.58. 日本基督教団甲東教会婦人会。

1989年7月 「日本の教会と『出エジプト』」『聖書と教会』1989年7月号、巻頭言。

1989年8月 「同窓会に思うこと」『ヨルダン会便り』(甲東教会)、第26号。

1990年2月 「地上では旅人であり寄留者である」『聖書と教会』1990年2月号、巻頭言。

1990年5月16日 「日本人と祝日」『京都新聞』(水曜ふおうらむ)
アジア財団翻訳サービスセンターにより、アメリカの新聞社、雑誌社に紹介された。

1990年秋(10月31日) 「年中行事のなかの儀式」『レゴ』(同志社大学宗教部)、第19号。

1992.1 「特集＝現代アメリカを知るためのキー・ワード・宗教問題」『英語教育』1992年1月号。

1992年6月23日 「米大統領選・『ペロー現象』を考える」『京都新聞』。

1992年夏(7月25日) 「民族と宗教の時代の次に来るもの」『レゴ』(同志社大学宗教部)、第21号。

1992年9月20日 毎日新聞「世紀末の神サマ」(28)の記事のなかのコメント。

1992年12月28日 朝日新聞（東京版、夕刊）「こころ」の「東と西の均衡ないので混乱」のポーローシンの講演についてのコメント。

1993年2月 「宗教を学んでみませんか。」『ONE PURPOSE 1993 新入生歓迎号』（同志社大学）32-33頁。

1993年7月 「シカゴ万国宗教会議百年」『いずみ』（金光教泉尾教会）、1993年7月号。

1993年7月 「万国宗教会議から百周年・宗教対話の未来・シカゴ会議の実像（上）・米国への『仏教東漸』」『仏教タイムス』、第1650号（1993年7月15日）。

1993年7月 「万国宗教会議から百周年・宗教対話の未来・シカゴ会議の実像（下）・『文明の宗教』の影響」『仏教タイムス』、第1651号（1993年7月30日）。

1993年10月 「万国宗教会議百周年インド大会・関西地区学習会パネル討議③」『いずみ』（1993年9月号）（金光教泉尾教会）。

1993年8月 「『銃と米国社会』考えるシンポ：来月4日大阪で・服部君の父や米の牧師参加」『朝日新聞』1993年8月30日（14版・社会・20頁）に、参加者の一人として、「同志社大神学部の森孝一教授らも交え、銃を持たざるを得ない米国の社会的・宗教的な背景を探る」という記事。

1993年9月 「[What] 国際化の波かぶる邦人 服部君射殺事件テーマに大阪でシンポジウム」毎日新聞、1993年9月15日に、本間長世氏などとともに、コメント。

1993年11月 「いのちの重みと正義—留学生服部剛丈君射殺事件の背後にあるもの・発題とシンポジウム」『いずみ』（1993年11月号—1994年1、2号）（金光教泉尾教会）。

『モルモン・フォーラム』第6巻、第1号 [通巻10号]
「書籍紹介」に「アメリカの『見えざる国教』とモルモン教」の書評。
「・・・日本の末日聖徒にとって自分たちが信じている宗教を理解するのに大変優れた書物である。」

1994年1月 「WCRP平和大学東京講座を開催」『WCRPN』No. 181
(1994. 1. 20)

1994年1月 「NIFTY-Serveを利用した資料検索」『同志社大学学術情報センター報』No. 6

1994年3月 「インドネシア、タイの留学生校友との出会い—日本留学フェアに参加して」、The Doshisha Times、平成6年3月15日号。

1994年8月11日 『毎日新聞』夕刊（東京版）、12日夕刊（大阪版）、9頁
「キリスト教は民族共存の核となりうるか」（「文化 評論と表現」）

1994年9月 「発言力増す新宗教右翼：保守的キリスト者を鼓舞」『日本海新聞』19日、「もう一つの米を象徴：発言力増す新宗教右翼」『京都新聞』21日、「もう一つのアメリカ：勢力伸ばす新宗教右翼、欲求不満増す『草の根』の人々」『信濃毎日新聞』21日、「もう一つのアメリカ：影響力増す新宗教右翼」『山陽新聞』23日、「もう一つのアメリカ：『神のもとなる国家』望み発言力増す新宗教右翼」『静岡新聞』26日など。他に『沖縄タイムス』、『神戸新聞』など。

1995年3月 『アジア・太平洋における対立と協調—国際学生セミナー・第21回国際学生セミナー報告書』大学セミナー・ハウス、日本国際教育協会。

1996年4月 「大統領選にみる保守化現象」『静岡新聞』4日（夕刊）、「大統領選と米国の保守化」、『山陰中央新聞』7日、『京都新聞』8日、『神戸新聞』9日、『徳島新聞』17日、『中國新聞』18日。

1996年4月 立花隆「私の読書日記」『週刊文春』4月11日号に『宗教からよむ「アメリカ」』の書評。

1996年4月 4月15日号『Nikkei Business』132頁に、『宗教からよむ「アメリカ」』への書評。

1996年4月 『宗教からよむ「アメリカ」』を著した森 孝一氏、「きのうきょう」、『聖教新聞』24日。

1996年5月 『宗教国家』アメリカの“現実”『産経新聞』（東京版）1996年5月26日。

1996年6月 『宗教国家』アメリカの模索『産経新聞』（大阪版）1996年6月14日（夕刊）。

1996年7月 『読売新聞』7月13日（夕刊）の「西垣通のおすすめ3冊」に『宗教からよむ「アメリカ」』の書評。秋竜山の漫画も。

1996年8月 『朝日新聞』8月25日、「読書欄」の「所変われば」の「ニューヨークの紀伊国屋書店のベストセラー」（8月）で、『宗教からよむ「アメリカ」』が7位にランクされた記事。

1996年9月 「有森さんの美しさ」、「随想」『神戸新聞』1996年9月4日（夕刊）。

1996年9月 「上田監督の辞任」、「随想」『神戸新聞』1996年9月20日（夕刊）。

1996年10月 「井上被告の慟哭」、「随想」『神戸新聞』1996年10月8日（夕刊）。

1996年10月 「宗教の政治活動への参画は当然の権利—日米の『政教分離』『民主主義』観を語る」、『創価新報』1996年10月16日。

1996年10月 「ジャパン・ドリーム?」、随想『神戸新聞』1996年10月24日（夕刊）。

1996年10月 NHKスペシャル「21世紀への奔流・神々への回帰」1996年10月25日、の「取材協力」。

1996年11月 NHK衛星第一「プライムタイム・ニュース」に、大統領選挙の結果についてのコメンテーターとして出演。1996年11月6日（水）午後10時—10時50分。

1996年11月 「首相の『公私』」、随想『神戸新聞』11月11日（夕刊）。

1996年11月 「南アフリカの国歌」、随想『神戸新聞』1996年11月26日夕刊。

1996年12月 「阪神大震災と南北問題」、随想『神戸新聞』1996年12月11日夕刊。

1996年12月 「新しい時間」、随想『神戸新聞』1996年12月27日夕刊。

1996年12月 大村英昭『現代社会と宗教—宗教意識の変容』（岩波書店、叢書「現代の宗教」①、1996年）の11—14頁に『宗教からよむ「アメリカ」』の引用と紹介。

1997年1月20日 NHK衛星第一「プライムタイムニュース・クリントン大統領、まもなく就任式」（午後10時—10時50分）にコメンテーターとして出演。

1997年1月21日 NHK衛星第一「BS特番・クリントン大統領就任式・米ABC中継特番から」（午前1—3時）にコメンテーターとして出演。

1997年2月17日 NHK教育テレビ「E TV特集 キリスト教・現代の模索」第一回 アメリカ・悩める文明社会に向き合う（午後8時—8時45分）にコメンテーターとして出演。

1997年3月1日 NHK教育テレビ「未来潮流・宗教学者阿満利麿が問う“無宗教社会”ニッポンのゆくえ」（午後8時—9時15分）で、阿満利麿氏と対談。

1997年3月15日 『産経新聞』「BOOK・本」欄に『アメリカと宗教』（JIIC 現代アメリカ 5）、財団法人日本国際問題研究所、1997年の書評が掲載された。

1997年4月 「『あの日』から一年が過ぎて」『チャペル・アワー奨励選集』、同志社大学キリスト教文化センター。

1997年6月7日 アメリカ学会第31回年次大会（愛知教育大学）
ワークショップB“Religion in Post-World War II America”のChair.

1997年8月 戸田徹子「書評：学生と読みたいアメリカ史の本」『アメリカ史研究』、第20号（1977年）、85—86頁に『宗教からよむ「アメリカ」』の書評。

1997年9月 「東京講座の印象」『The Doshisha Times』（平成9年9月15日号）、2頁。

1998年2月 「同志社大学の神学部の使命—森孝一・学部長が抱負、時代の要請に応じて、展開力のある人材を育成」『中外日報』、1998年2月14日、11頁、(聞き手=京都総本社・中村健記者)。

1998年3月 「心の教育」『同窓会誌』38号(1997年)、財団法人神戸高等学校同窓会、60-61頁。

1998年4月 「アメリカ宗教から読む21世紀の世界」(現代宗教と宗教に関する研究委員会 ヒヤリング)『NIRA ニュース』No. 4, April 1998、3頁。

1998年8月 「『心の教育』の出発点」『産経新聞』1998年8月6日(夕刊)、5頁。

1998年10月 「『聖書の宗教』枠内で攻防—”米国統合の象徴”大統領の不倫問題」『読売新聞』、1998年10月15日(夕刊・東京版)。

1998年10月 「宗教的国家アメリカークリントン大統領の不倫問題—『見えざる国教』の枠組み内で攻防」『読売新聞』、1998年10月23日(夕刊・大阪版)。

1999年4月 「20世紀どんな時代だったのか 266 思想 『信仰』の系譜① 『進化論』米で根強い対立」(社会部 中西 茂)『読売新聞』1999年4月16日で、森のコメントを紹介。

1999年6月 「笹尾典代 書評：森 孝一著『宗教からよむ「アメリカ」』『宗教と社会』第5号(1999年)、111-116頁。

2000年3月 「南アフリカ調査旅行」『同志社時報』No. 109(2000)、49-51頁。

2000年3月 「米『宗教右派』を分析—森孝一同志社大学教授が講演」『中外日報』、平成12年(2000年)3月25日。

2000年3月 秋田大学教育文化学部国際言語文化学科の後期日程の入試問題に、『宗教からよむ「アメリカ」』の日米の祝日・休日について扱った部分の2頁半が引用された。設問は二つあって、(1)「祝日」に対する著者の見解を200字程度でまとめなさい、(2)あなたが国民の祝日・休日にしたい日を一例挙げ、その理由あるいは意義を600字程度で述べなさい。

(河合出版、〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-2-13 電話：03-3354-1491)

2000年3月 「南アフリカ共和国のキリスト教」『同神期報』第76号、2000年3月20日発行、2頁。

2000年4月 「森孝一学部長に聞く 神学の可能性」『同志社大学 PRESS』、Vol. 25、2000年4月3日、8頁。

2000年11月 「大統領選に見るアメリカ宗教事情—ユダヤ教徒リーバーマン氏の波紋」、『産経新聞』、2000年11月1日(東京版・夕刊)。

2000年11月 「アメリカ社会の寛容度は・・・米大統領選の宗教的視点」、『産経新聞』、2000年11月6日（大阪版・夕刊）。

2000年12月15日 『宗教からよむ「アメリカ」』、第六刷発行。

2000年12月 「座談会・21世紀の日本の宣教」森 孝一、橋本昭夫、万代栄嗣、藤林イザヤ、『Sighs』、第4号、8-38頁。

2001年4月 「WCRP日本委員会青年部会講演会 宗教対話の課題と展望①」、『いずみ』、2001年5月号、22-26頁。

2001年5月 「WCRP日本委員会青年部会講演会 宗教対話の課題と展望②」、『いずみ』、2001年6月号、 ?頁。

2001年6月 「WCRP日本委員会青年部会講演会 宗教対話の課題と展望③」、『いずみ』、2001年7月号、22-25頁。

2001年7月 「WCRP日本委員会青年部会講演会 宗教対話の課題と展望④」、『いずみ』、2001年8月号、36-39頁。

2001年4月 立花 隆『ぼくが読んだ面白い本・ダメな本 そしてぼくの大量読書術・驚異の速読術』（文藝春秋、2001年）に、『宗教からよむ「アメリカ」』が紹介されている。96頁。

2001年5月 説教「流れのほとりに」『道』（日本キリスト教団王子教会）、第三十二号、6-15頁。

2001年6月 「大学で何を学ぶのか？」『月刊チャペル・アワー』、No. 233、213-223頁。

2001年7月31日～8月4日 愛媛大学法文学部集中講義
「現代英語表現論」 授業題目「アメリカの宗教と言語」（愛媛大学法文学部 平成13年度 授業計画 [シラバス]）、89頁。

2001年9月17日 「愛国心と宗教心と・・・「不安」のアメリカから」『産経新聞』、2001年9月17日夕刊（大阪本社）、6頁。

2001年9月 「待てない人びと一さまざまな原理主義者」『大学時報』、No. 280, Sept. 2001、130-131頁。

2001年9月17日 「愛国心と宗教心と一『不安』のアメリカから」、『産経新聞』、2001年9月17日。

2001年9月28日 「結束、教会に『愛国歌』一同時多発テロ、揺れる米国」、『朝日新聞』、2001年9月28日。

2001年10月9日 「Interview テロ事件の背景・深層」『同志社大学 PRESS』、第35号（2001年10月9日）。

2002年1月30日 『熊本日日新聞』に熊本バンド126周年記念公開講演会についての記事が掲載された。

2002年1月30日 『熊本日日新聞』（夕刊）に熊本バンド早天祈祷会の写真と記事が掲載された。

2002年7月 布施 広（毎日新聞北米総局長）「WASHINGTON D. C. 一見えざる国教」、『エコノミスト』、2002年7月16日号、68頁に拙書の紹介有り。

2002年8月28日 「医師と患者の対話訴え」、『読売新聞』（福岡版）に、第26回日本医学会総会の併設イベント「すこやかメッセ2003」のプレシンポジウム「みんなで話して考える健康みらい」の記事。

2002年9月3日 「日本医学会総会プレシンポジウムの詳報―患者の思いにミニを澄ませ」、『西日本新聞』に、第26回日本医学会総会の併設イベント「すこやかメッセ2003」のプレシンポジウム「みんなで話して考える健康みらい」の記事。

2002年9月7日 「米中枢同時テロ1年 米国民こそ宗教的 イスラムもいずれ『国教』に 森 孝一同志社大神学部長に聞く」、『信濃毎日新聞』、2002年9月7日。

2002年9月7日 「同志社大学神学部長 森 孝一氏に聞く 『見えざる国教』現在する米」、『熊本日日新聞』。

2002年9月9日 「連続講義『イスラームとアメリカ』、相互理解の道を探る 『若者に期待』の声」、『朝日新聞』、2002年9月9日（東京版・夕刊）の「こころ」欄に、「イスラームとアメリカ」の授業とシンポジウムについての紹介記事。

2002年9月11日 「米統合する『見えざる国教』―いずれイスラムを受容」、『京都新聞』。

2002年10月 「狭き門より」、『月刊チャペル・アワー』、No. 238（2002. 20. 20）、181-189頁。

2002年10月 「論壇時評・私が選んだ3点」に『『宗教国家』アメリカは原理主義を克服できるか?』（『現代思想』10月号）が選ばれた。（選定者：李 鐘元 [イ・ジョンウォン] 立教大学教授 [国際政治]）、『朝日新聞』2002年10月31日（夕刊）。

2003年1月 「新生を実感するために」、『基督教世界』第3622号、1頁。

2003年2月 村田晃嗣「アメリカを知るための20冊―政治、外交、歴史を中心に」、『GAIKO FORUM』2003年2月号、64-67頁に、『宗教からよむ「アメリカ』』が紹介さ

れた。

2003年3月 NHKラジオ第一「ラジオタ刊」(2003.03.18)「ブッシュと宗教」に出演。

2003年4月 「ブッシュ大統領を駆り立てる宗教右派 心根わしづかみ原理主義の源泉」『AERA』(03.4.14)、32-33頁で、「『宗教からよむ「アメリカ」』などの著書がある森孝一同志社大学神学部教授は」とインタビュー記事。(記事の全体は、『「ジョージ・ブッシュ」のアタマの中身』の内容のパクリ)

2003年5月 「ことばの旅人 復讐するは我にあり」(社会部・森北喜久馬)『be on Sunday 朝日新聞』、2003年5月3日に、『宗教からよむ「アメリカ」』の紹介あり。

2003年5月 「アメリカの本質は宗教国家一同志社大一神教学際研究センターがシンポ」、稲垣真澄氏の記事。『産経新聞』2003年5月24日。

2003年5月 『産経新聞』「文庫プロムナード」に『「ジョージ・ブッシュ」のアタマの中味』の書評が掲載された。『産経新聞』2003年5月25日。

2003年5月 「ベツレヘムの闇と光」『月刊チャペル・アワー』(同志社大学キリスト教文化センター)、2003.5.20、133-143頁。

2003年5月 「『イラク戦争』からの問いー3. 市民宗教ー丸となる『原動力』」、『読売新聞』、2003年5月28日(東京版・夕刊)に、市民宗教についてのコメント。

2003年5月 佐伯啓思『新「帝国」アメリカを解剖する』(ちくま新書、2003年)、184-185頁に『宗教からよむ「アメリカ」』のJ・ストロングについての引用。

2003年6月 「異なる文明理解の道探る一同志社大『一神教学際研究センター』新設」、2003年6月13日 『読売新聞』(大阪版・夕刊)。

2003年7月 『宗教からよむ「アメリカ」』第9刷800部 累計部数 14,500部。

2003年7月 山内進『十字軍の思想』(ちくま新書、2003年)、227頁に『宗教からよむ「アメリカ」』、228頁『「ジョージ・ブッシュ」のアタマの中身』の紹介。

2003年7月 三浦俊章『ブッシュのアメリカ』(岩波新書、2003年)、55頁に「見えない国教」の紹介。

2003年8月 西宮教会『ユーラクロン』に菊池守一「ブッシュ政権とファンダメンタリストたち」で、拙書『宗教からよむ「アメリカ」』と『「ジョージ・ブッシュ」のアタマの中身』を紹介。

2003年9月 「マイ・オピニオン 一神教の世界理解をー9.11テロ2周年」、『毎日新聞』、2003年9月9日。

2003年9月 「「九・一一」2周年」京都新聞など

2003年9月 「シンポジウム・イスラームとアメリカ共存の可能性を探る」(村田晃嗣、臼杵 陽、森 孝一、小杉 泰)、『基督教研究』、第65巻、第1号(2003年9月発行)、同志社大学神学部 基督教研究会、1-42頁。

2003年9月 「自律—self government—」、『月刊チャペル・アワー』、No. 243 2003. 9. 20、29-38頁。

2003年11月 「同志社大学—神教学際研究センターの試み—21世紀COEに採択」、『産経新聞』(東京版)、2003年11月15日。

2003年11月 「同志社大学教授・森 孝一氏講演の詳細記録『グローバル時代の宗教』、『日経フォーラム』第304号別冊B。

2003年12月 「イラク戦争とアメリカの大義」『キリスト教学校教育』、475号(2003年12月15日)。

2003年12月 「グローバル時代の宗教」『日経フォーラム会報』第304号(2003年12月25日)、3-4頁。

2004年3月 「危機的状況のしるし」『同志社大学神学教育後援会ニュース』、No. 33、2頁。

2004年2月 「『9. 11』二周年を迎えて」『月刊チャペル・アワー』、No. 245(2004. 2. 2)、79-87頁。

2004年3月 「特集 現代世界と宗教 ブッシュ政権のグローバル戦略と宗教」、『同志社時報』、No. 117、2004年、16-38頁。(2003年12月3日、同志社大学・関西学院大学 東京オフィス開設ジョイント・シンポジウム。森 孝一、豊下 樹彦、村田晃嗣、栗林輝夫。)

2004年4月 「建国以来のDNA暴走、国家より『原理』の大義・『宗教国家アメリカ』解剖・同志社大・森 孝一氏に聞く」、『東京新聞』、ニュースの追跡(田原拓治記者)、2004年4月18日。

2004年5月 「原理主義に揺れるアメリカ宗教事情」、世界と日本 大図解シリーズ No. 632 東京新聞サンデー版、2004年5月16日、1-2頁。(解説と製作協力)

2004年6月 「『宗教国家』米国と大統領選挙」、NHK教育テレビ「視点・論点」で解説。2004年6月1日 午後10時50分~11時。

2004年7月 「現代のことば 主権移譲」、『京都新聞』2004年7月1日(夕刊)。

2004年7月 『宗教からよむ「アメリカ」』、第10刷(800部 累計部数 15,300部)。

2004年7月 森 孝一・田原 牧「Dialogue・文明の共存と安全保障ーC I S M O R が挑む挑戦」、『日経B P ムック「変革する大学」シリーズ 同志社大学 進化する< 伝統>』、2004年、56-63頁。

2004年9月 「現代のことば 分離壁」、『京都新聞』2004年9月3日（夕刊）。

2004年9月 「学びの初め」『月刊チャペル・アワー』、No. 249（2004. 9. 30）、同志社大学キリスト教文化センター、1-15頁。

2004年10月 「大統領は宗教国家・米国の”大祭司”（そこが知りたい！！’04米大統領選）」、『夕刊フジ』、平成16年10月7日に、コメントを紹介。

2004年10月 「国境と民・アメリカ合衆国から考える。『見えざる国教』の結束力。森 孝一・同志社教授に聞く」、『産経新聞』、2004年10月7日夕刊。

2004年10月 「カギ握る『宗教』 米大統領選を解説 講演で森同大神学部長」、『中外日報』、平成16年（2004年）10月16日。

2004年10月 「米大統領選挙と宗教 森同志社大学教授が分析 関西プレスクラブ」『産経新聞』、平成16年（2004年）10月27日。（読売新聞、日本経済新聞、朝日新聞も同様の記事）

2004年10月 「現代のことば 国立慰霊施設」、『京都新聞』、2004年10月29日夕刊。

2004年10月 「米を宗教から見る大切さ 大統領選の争点を交えて解説 森・同志社大神学部長が講演」『朝日新聞』2004年10月30日（夕刊）。

2004年11月 「大統領選挙とアメリカの宗教状況 ①」、『いずみ』、2004年11月号、大阪国際宗教同志会 平成16年度第三回例会 記念講演、金光教泉尾教会。

2004年12月 the Arabic interview in the Assabah newspaper (means Morning) Wed, Dec. 8th, 2004. 紙面の半頁を使って、インタビューを掲載。

2004年12月 「大統領選挙とアメリカの宗教状況 ②」、『いずみ』、2004年12月号、大阪国際宗教同志会 平成16年度第三回例会 記念講演、金光教泉尾教会。

2005年1月 「大統領選挙とアメリカの宗教状況 ③」、『いずみ』、2005年1月号、大阪国際宗教同志会 平成16年度第三回例会 記念講演、金光教泉尾教会。

2005年2月 「大統領選挙とアメリカの宗教状況 ④」、『いずみ』、2005年2月号、大阪国際宗教同志会 平成16年度第三回例会 記念講演、金光教泉尾教会。

2005年2月 「日本における神学教育の課題と現状」、「日韓神学シンポジウム」、2005年2月18日、同志社大学寒梅館大会議室。

2005年3月 「現代のことば 自由の拡大」、『京都新聞』、2005年3月2日夕刊。

- 2005年4月 「文明対話の懸け橋に一宗教巡る争い解消へ国際研究拠点 同志社大学神学部長 森 孝一さん」、『日本経済新聞』、2005年4月4日（夕刊）。
- 2005年4月 「ブッシュ再選後のアメリカとキリスト教の行方」、『東京青年』（東京YMCA）、No. 419、2005年4月、3-19頁。
- 2005年4月 「現代のことば カルト集団」、『京都新聞』、2005年4月27日（夕刊）。
- 2005年6月 『宗教からよむ「アメリカ」』、第11刷（800部 累計部数 15,700部）。
- 2005年6月 「現代のことば 歴史認識」、『京都新聞』、2005年6月27日（夕刊）。
- 2005年7月 「連続講演会『宗教における癒しと救済』、上智大キリスト教文化・東洋宗教研究所」で6月26日の講演内容の紹介、『中外日報』、2005年7月14日。
- 2005年7月 「神学教育の新たな展開」、『同志社大学広報』、No. 374、2-3頁。
- 2005年8月 「現代のことば 争点」、『京都新聞』、2005年8月23日（夕刊）。
- 2005年9月 「対談・宗教復興と一神教・山内昌之×森 孝一」、国際宗教研究所（編）『現代宗教 2005』、東京堂出版、2005年、7-36頁。
- 2005年9月 『ブッシュ政権の世界戦略論理と宗教』（APA FORUM）、財団法人アジア太平洋研究会、1-35頁。
- 2005年9月 「『同志社科目』新設の目的」、『月刊チャペル・アワー』、No. 253（2005.9.30）、72-82頁。
- 2005年10月 「現代のことば 政教分離・信教の自由」、『京都新聞』、2005年10月21日（夕刊）。
- 2005年12月 「現代のことば リセット」、『京都新聞』、2005年12月20日（夕刊）。
- 2006年2月 「現代のことば 風刺画」、『京都新聞』、2006年2月20日（夕刊）。
- 2006年4月 「現代のことば 教育基本法の改正」、『京都新聞』、2006年4月24日（夕刊）。
- 2006年5月 『宗教からよむ「アメリカ」』、第12刷（600部 累計部数 16,300部）。
- 2006年6月 「現代のことば 『郷土』と愛国心」、『京都新聞』2006年6月20日（夕刊）。
- 2006年8月 「田原由起雄の心のかたち—世界宗教者の声」、『毎日新聞』2006年8月14日に、シカゴ万国宗教会議における平井金三についての森 孝一の紹介を掲載。

2006年8月 「急進派と穏健派・実効ある対話をー『世界宗教者平和会議』第8回世界大会に寄せて」、『読売新聞』、2006年8月24日（夕刊）。

2006年8月 「『摂理』へと向かう大学生ー自分探しの場・仲間求めてー『心の空白』埋める絶対性」、『京都新聞』、2006年8月29日。

2006年10月 映画「父親たちの星条旗」の批評（広告）。『朝日新聞』、2006年10月27日（夕刊）。

2006年11月 「宗教的保守 後退せず、国むしろ右に重心ー住民投票で読み解く米中間選挙」、『東京新聞』、2006年11月16日に取材コメント。

2007年1月 「パネルディスカッション・『京都・宗教系大学院連合』設立記念シンポジウム」、『京都・宗教論叢』、創刊号、17-32頁。

2007年1月 「神学部を存続させるという使命のために」、『基督教世界』、第3670号、2007年1月。

2007年3月 「一神教研究の意味ー田原由紀雄の心のかたち」『毎日新聞』2007年3月5日（夕刊）に、一神教学際研究センターと『EUとイスラームの宗教伝統は共存できるか』について紹介。

2007年6月 「同志社大学神学部の新しい試みー一神教研究とキリスト教神学」、『医学と福音』、2007年5,6月合併号、17-22頁。

2007年6月 「テーマセッション2 『原理主義』の実相ー中東・アメリカ・EUー」、『宗教と社会』、第13号、229-231頁。

2007年6月 『宗教からよむ「アメリカ」』、第13刷（600部 累計部数 16,900部）。

2007年7月 「マニフェストをよく読もう・キャンパスの視点ー倉重篤郎が聞く選択のヒント・’07参院選」、『毎日新聞』（夕刊）、2007年7月20日、1面。

2007年9月 『超大国アメリカの素顔』の書評。『週刊東洋経済』2007.9.29号、141頁。

2007年9月 『超大国アメリカの素顔』の書評。『週刊エコノミスト』2007.9.25号、57頁。

2008年5月 佐藤 優「役に立つ神学・第13回『アメリカの「見えざる国教」』、月刊『PLAYBOY』（6月号、88-91頁）で、筆者の研究を紹介。

（共同研究員）

平成6年度(1994年度) 日本国際問題研究所 外務省委託研究 「アメリカ社会と宗教」研究会座長
平成7年度(1995年度) 日本国際問題研究所 外務省委託研究 「アメリカ社会と宗教」研究会座長
平成11年度(1999)年度 国立民族学博物館 地域研究企画交流センター連携研究 「イスラーム復興の諸側面ー地域間の比較研究ー」(代表:松原正毅、大塚和夫)
平成12年度(2000年度) 国立民族学博物館 地域研究企画交流センター連携研究 「宗教と民族の復興?ー地域間比較の試み」(代表:臼杵 陽、大塚和夫)
平成13年度(2001年度) 国立民族学博物館 地域研究企画交流センター連携研究 「宗教と民族の復興?ー地域間比較の試み」(代表:臼杵 陽、大塚和夫)
平成12年度(2000年度) 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 重点共同研究プロジェクト 「アフリカ・アジアにおける政治文化の動態」
平成13年度(2001年度) 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 重点共同研究プロジェクト 「アフリカ・アジアにおける政治文化の動態」
平成14年度(2002年度) 国立民族博物館共同研究 研究課題番号38 「グローバル化の中の国家・民族・宗教」(研究代表者:臼杵 陽、大塚和夫、西谷 修)
平成14年度(2002年度) 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 共同研究プロジェクト「アフリカ・アジアにおける政治文化の動態」
平成15年度(2003年) 国立民族学博物館共同研究 研究課題番号33 「グローバル化の中の国家・民族・宗教」(研究代表者:臼杵 陽、大塚和夫、西谷 修)
平成15年度(2003年) 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 重点共同研究プロジェクト「アフリカ・アジアにおける政治文化の動態」
平成16年度(2004年) 国立民族学博物館共同研究 研究課題番号102 「グローバル化の中の国家・民族・宗教」(研究代表者:大塚和夫、臼杵 陽、西谷 修、押川文子)

(学会)

アメリカ学会 理事(1998-)
日本基督教学会 理事(2000-)
「宗教と社会」学会 監事(2001-2002) 常任委員(2005-)
日本宗教学会
宗教倫理学会
比較文明学会
American Academy of Religion
現代における宗教の役割研究会 理事(2006.12-)

(COE、科学研究費補助金)

○科学研究費

研究期間:平成11年度~平成12年度

研究種目名：基盤研究（C）（2）

課題番号：11610031

研究者番号：30121601

研究課題名：「アパルトヘイトとキリスト教—アメリカ合衆国との比較研究」

内定金額：平成11年度 160万円

平成12年度 40万円

研究期間：平成14年度～平成15年度

研究種目名：基盤研究（C）（2）

課題番号：14510038

新細目番号：2804

研究者番号：30121601

研究課題名：「公教育における宗教教育—アメリカ合衆国の現状に関する調査研究」

内定金額：平成14年度 110万円

平成15年度 70万円

研究期間：平成19年度～平成20年度

研究種目名：基盤研究（C）

課題番号：19520070

研究者番号：30121601

研究課題名：「アメリカにおける『福音派』の多様性についての研究」

内定金額：平成19年度 195万円（直接経費 150万円、間接経費 45万円）

平成20年度 260万円（直接経費 200万円、間接経費 60万円）

○21世紀大学COEプログラム

平成15年度「21世紀COEプログラム」

学際・総合・新領域部門

「—神教の学際的研究—文明の共存と安全保障の視点から」

拠点リーダー